



東西南北～
文化情報・観光情報

県境を行く 関東ド・マンナカ宣言都市 古河市編



県境地図

筑波総研株式会社
主任研究員 佐々木 里也

古河市は、茨城県の西端に位置する人口約15万人の都市です。古河市を中心とした半径100kmの円の中に関東7都県がおさまる位置にあることから、「関東ド・マンナカ」都市を宣言し地域活性化を行っています。今回、関東の真ん中に位置する古河市の魅力を再発見したく古河市を中心とする地域を訪ねてみました。

1. 県境のまち

「関東ド・マンナカ」都市である古河市は、西側を埼玉県、北側を栃木県に接しています。そのため、3県（茨城県、埼玉県、栃木県）が接する地点があります。さらには、茨城、埼玉、栃木の3県接地点から、直線距離で約2km行ったところに、埼玉、栃木、群馬の3県接地点があります。

全国で、3県接地点は48箇所程ありますが、本地域は、山越え等することなく簡易に行ける範囲に3県接地点が2箇所もある珍しい地です。

(1) 茨城、埼玉、栃木の3県接地点(地図-A)(写真①)
茨城県、埼玉県、栃木県が接する地点は、渡良



写真①：茨城、埼玉、栃木の3県接地点付近

瀬遊水地谷中湖の南端、国道354号三国橋近辺の渡良瀬川の中にあります。川の中にあり、茨城県側は、古河市営ゴルフ場「古河ゴルフリンクス」の第7ホールがあるため、対岸である埼玉県側の渡良瀬川の土手からしか3県接地点を見ることが出来ません。なお、地元の方によると、この土手から筑波山を望むことが出来、眺めもよいことから写真愛好家の撮影ポイントとなっているそうです。

(2) 埼玉、栃木、群馬の3県接地点(地図-B)(写真④)

国道354号三国橋を茨城県古河市から埼玉県加須市に方面に渡り、渡良瀬遊水地沿いの道(国道354号、県道9号)を約2.5km北上すると左手に「みちの駅きたかわべ」(写真②)があります。この「道の駅きたかわべ」から500m程南へ歩いたところに埼玉、栃木、群馬の3県接地点があります。アメリカで有名な4州接地点「フォー・コーナーズ」(写真③)のようなモニュメントはありませんが、接地点に看板(写真④)が立っています。現地には



写真②：道の駅きたかわべ



写真③：フォー・コーナーズ※



写真④：埼玉、栃木、群馬の3県接地点付近

※写真③出所：「NAVAJO NATION PARKS&RECREATION」
(<http://navajonationparks.org/htm/fourcorners.htm>)
(2013/10/9アクセス)



写真⑤：古河歴史博物館

行かれる方は、看板が小さいので地図を見ながらでもなかなか見つからないかもしれませんが、川口浩隊長になったつもりでちょっとした探検気分を味わってみてください。

2. 歴史・文化のまち

(1) 古河歴史博物館(写真⑤)

〔住所：古河市中央町3-10-56〕

古河市は、室町時代に古河公方くわぼうの本拠地、江戸時代に古河藩の城下町で日光街道の宿場町として栄えました。古河歴史博物館は、それら古河市の伝統ある歴史を伝える場所として、古河城出城跡に平成2年に設立されました。

古河歴史博物館には、古河城下の四軒町の屋敷で生まれ、江戸幕府政治の中核にあった古河藩主、譜代大名の土井利厚・利位の二代に仕えた「鷹見泉石」ゆかりの品が数多く収められています。鷹見泉石は、日本最初のオランダ国地図「新訳和蘭国全図」を制作した蘭学者で、鎖国時代の中、数多くの学者・文化人と交流し、海外情報を収集・分析した人物です。館内には、鷹見泉石が愛用していた地図、書物や交流関係を記したパネルが展示され、鷹見泉石の情報収集能力、分析力に驚嘆させられます。



写真⑥：古河文学館



写真⑦：篆刻美術館

写真⑧：古河街角美術館

(2) 古河文学館(写真⑥)〔住所：古河市中央町3-10-21〕

古河歴史博物館の隣にある古河文学館では、歴史小説家「永井路子」をはじめとする古河ゆかりの文学者の書籍、直筆原稿が展示されています。また、同館には、幻の名器といわれる蓄音機「EMG社マークXb」があり、毎月SPレコードの鑑賞会が開かれています。約80年前の蓄音機ですが、奥行きのある今でも色あせない音色を醸し出します。

(3) 篆刻美術館(写真⑦)・古河街角美術館

〔住所：古河市中央町2-4-18、2-6-60〕

篆刻美術館は、平成3年に開館した日本で初めての篆刻専門の美術館です。古河出身の故「生井子華」の作品を中心に、現在活躍中の作家の作品などが展示されています。また、篆刻美術館の側にある古河街角美術館では、古河市ゆかりの作品が展示されています。

3. 食を味わう(写真⑨)

古河市には、茨城県最大級の道の駅「まくらがの里こが」(住所：古河市大和田2623)が、新4号バイパス、大和田交差点近くにあり、平成25年7月にオープンし、地元朝採れ新鮮野菜市場「まくらが」、地産地消フードコート「みやことほまれ」、お土産コーナー「ゆきはな」等があり、見て、触って、食べて楽しめる場所となっています。



写真⑨：道の駅「まくらがの里こが」